

朔東も愈々冬到来である。霜、雪、結氷、根雪の平年値等を調べてみた。初霜の平年値は、帯広で 10/5、釧路で 10/11、根室で 10/21、網走で 10/22 である。結氷初日の平年値は、初霜から 1 週間乃至 10 日後である。さて、初雪であるが、最も早いのは、各地とも 10 月上旬であった。平年値は、帯広で 11 月 5 日、釧路で 11 月 11 日、根室で 11 月 9 日、網走で 10 月 29 日である。

根雪初日平年値は、網走が最も早くて、1 2 月 4 日、次いで帯広が 1 2 月 13 日であり、根室と釧路は年末から元旦である。今年の冬はどうだろうか。旭川や札幌は大雪であるが、当地は所謂十勝晴れに恵まれて、寒さはあるものの雪に悩まされることは未だない。有り難いことだ。

然しながら、管内の峠道のうち、既に知床峠（国道 334 号線）は、既に冬季の通行止めに入っている。通行止めの開始時期が斜里側と羅臼側で違っているのが面白い。羅臼側が早い。

道道でも、冬季間通行止めになっているのが幌鹿峠を越える道道 1085 号だ。この道道の面白いところは、道路の一部が糠平スキー場のゲレンデとなっていることだ。このような道道は北海道唯一だろう。また、この道道を利用しての冬季の機動訓練が行われた記録がある。糠平の宿泊所を起点として、この道道を機動して、然別演習場まで前進して、そこで攻撃または防御の訓練を行っていた。小生も連隊長時代に岩内を発進点とし、ニセコを越えて、民間のスキー場を滑り降りて、一時状況を中止、羊蹄山麓まで車両移動、事後羊蹄山を一周し、高嶺演習場で状況下の攻撃を実施して一連の訓練を終えた経験があるが、同じような訓練を朔東の部隊もやっていたようだ。（閑話休題）

この 2 つの道路以外については、年間を通じて通行が確保されている道路と大雪等の気象障害時には一時的に通行止めになる道路に区分されている。

北海道雪害対策要綱によれば、北海道開発局が管理する道路（即ち国道）、北海道が管理する道路（所謂道道）に関して、第一種から第三種に区分して、冬季間の除雪を行って交通を確保する除雪作業の基準を定めている。国道と道道共に同じ基準で実施している。1 種は、昼夜の別なく除雪を実施し、常時交通を確保することとされており、2 種は、2 車線確保を原則として、夜間除雪は行わない。道道の場合は、状況によっては、1 車線幅員で必要な待避所を設けることもあり、異常降雪時には、約 10 日以内に 2 車線または 1 車線の確保を図ることとされている。また、第 3 種とは、1 車線確保を原則とし、必要な待避所を設け、夜間除雪は行わないこととされている。

管内の国道等で大雪・異常気象等で一時通行止めになる道路は、石北峠の国道 39 号線、三国峠の国道 273 号線、美幌峠の国道 243 号線、阿寒横断道路の国道 241 号線、日勝峠の国道 274 号線、黄金道路の国道 336 号線である。

これ以外の国道については、常時通行可能な 1 種に指定されている。

除雪機械も関係箇所に配置されている。たとえば、帯広開発建設部及び帯広土木現業部所有の除雪機械は、ドーザー計 10 台、グレーダー 18 台、ロータリー除雪車 34 台等である。

これを充分と見るか不十分と見るかは一に降雪状況によるが、小生の記憶では、この保有器材は必要最小限の質・量であって、状況によっては民間土木業者の建設器材を役務調達して実施している。従って、予期以上に降雪があった場合には、予算が不足するので、急遽補正予算を組むことになりかねぬ。北海道はこういう意味においては大変だ。山間部と言うかスキー場周辺だけ雪が降って市街地部は降雪なしと言う訳にはいかないのだろう、残念ながら。いずれにしても、我々が白川夜船の間に、円滑な市民生活を維持するために夜間の除雪作業に従事している人の居る事

に想いを至し、感謝すべきだ。

除雪の為、除雪センターを設け、除雪作業の拠点としている。ここには、除雪共同企業体の担当者が常駐し、除雪車の出動判断や問い合わせ対応を行っている。車道除雪は、新雪の除雪を先ず行い、路面整正を行って、凹凸になった路面を平坦にして車が走りやすくする。次いで、拡幅除雪を行って車道の幅を広げる。道路脇に積み上げられた雪は運搬排雪として、郊外等の雪捨て場に捨てられる。除雪車の出動基準は、バス通り等の交通量の多い幹線道路は、積雪 10 センチ、住宅地等の生活道路は 15 センチを目処にしているようだ。地域によっても異なるのかも知れぬが・・・

道路除雪と共に冬季における円滑な交通確保の為の対策として、防雪柵の設置がある。各道路では、防雪柵の設置に余念が無い。防雪柵は、道路上に振る雪を飛ばしたり、吹雪で道路が見づらくなるのを防ぐ目的で設置されている。防雪柵はその型式により、「吹払柵」「吹溜柵」「吹止柵」に分けられている。防雪柵の下部の間隙から吹き抜ける強い風で、道路の路側や路面にある雪を吹き払う方式が「吹払柵」である。吹溜柵は、道路の風上側に設置して、風の力を弱めることによって、雪を柵付近に堆積させて雪の吹き込みを少なくしようとするものであり、吹止柵は、風雪の侵入を防いで雪を風上側に堆積させんとするものである。風の力で吹き飛ばすか風雪を止めるか或いはその中間状態を狙うかの差異である。防雪柵を見た時にこの防雪柵は何型を考えながら見るの一興か。

(参考：北海道雪害対策要綱、理科年表、2部地誌班資料、各HP、etc)